

会報 ふれあい

No.66

令和2年10月1日

発行・編集 青少年育成牛久市民会議

事務局 生涯学習課 TEL.871-2301

本号の写真は昨年度の活動を中心に掲載しています。



鯉まつりは幼保育園児・小中学生にとっては重要な発表の場

鯉まつりは幼保育園児・小中学生にとっては重要な発表の場
令和元年12月14日に、茨城県青少年育成協会から大

拡大会場を確保し、令和元年12月14日に、茨城県青少年育成協会から大
拡大会場を確保し、令和元年12月14日に、茨城県青少年育成協会から大



我を忘れてむじゃきに水遊び

「活動再開に向けて」

家庭・学校・地域一体で子どもを育てる街へ

コロナをバネに新しい発展を目指す青少年育成牛久市民会議

いつもであれば、色とりどりのこのぼりが皁月の空高く舞い上がり、その下に牛久市民がたくさん集うはずの第31回うしく鯉祭りが中止となりました。そのため、

会報「ふれあい」の発行が中止となり、65号は幻の号となりました。今年2月16日に第1回うしく鯉祭り実行委員会が開催され、準備がスタートした矢先のことでした。

当初心を白熱に、事業報告と討論で2時間を越え、牛久市の活動について高い評価を受けました。我が牛久市の活動内容は多種多様で、県内の青少年育成会議の中でも非常に誇れる内容となっています。これも国民会議から県民会議、市民会議と変遷した中で、これまで会議に関わった皆様方のご協力により培われた事業内容が凝縮され発展した結果だと思えます。

この足がかりがなければ、家庭・学校・地域が一体となって子供たちを育てるといって、私たちのまちづくりビジョンはどうなるのか。活動をほぼ全面的に止めざるを得ないコロナ自粛は、それを考えさせられる良い機会となりました。

ウイズコロナの中で活動のさらなる充実・発展を目指して動き出せるよう、皆様にはくれぐれも健康に留意し、今後とも青少年育成牛久市民会議にご協力いただけますようお願い致します。

会長 田井 鉄男

青少年育成牛久市民会議の 現場を動かす4つのエンジン 専門部会

青少年育成牛久市民会議は、①会長・副会長・会計・監事・顧問の本部役員②24の行政・市民団体の代表で構成される理事③29人の青少年相談員で構成される幹事④各行政区を代表する支部長——という、全ての牛久市民を基盤とする役員会の下に、青少年部会、家庭環境部会、社会環境部会、広報部会という4つの専門部会があり、この専門部会が中心となって青少年育成牛久市民会議の具体的な活動を展開しています。今回はこの4つの専門部会の活動の概要を各部長に説明していただきます。

青少年部会

部会長 千葉憲夫

夏休みには5・6年生でキャンプ 責任を持って自分の役割を果たす

青少年部会は、2つの大きな行事を主催またはサポートしています。

1つは、牛久市内の小学校5・6年生を対象にした「ふれあいキャンプ」です。このキャンプは全小学校を対象にしているため参加者は初顔合わせが多く、説明会やキャンプ初日には緊張している子も見かけられます。

日程は2泊3日で、場所は常陸太田の竜神ふるさと村キャンプ場。とても豊かな自然に恵まれている山奥です。例年、参加者数に変動はありますが、昨年は児童

34名、大人25名が参加しました。食事は班ごとに準備を行い、火起こしや炊飯や惣菜作りも全て自分たちで行います。流しソーメンや竹ごはん、とうもろこしやソーセージの炭火焼き、清流での魚のつかみどりなど、日常では経験できそうにない体験ができます。

ふれあいキャンプの目的は①自然に感謝し自然を大切に②よく考えて行動し責任を持って自分の役割を果たす③新しい友だちを作り協力して楽しいキャンプにする——子供たちにそういう能力を身に付けさせることです。



最近竹飯ごう炊はんが中心

準備が大変なのは事前の竹ポツクリ作りです。支援者のご協力での竹の切り出しや切断・穴開け・ヒモ通しなどを10数名で行います。例年5月3日に行われる祭り本番では、前日の準備から当日の終了まで、フル稼働となります。

子供たちが大きくなり、この小学校時代のキャンプや鯉のぼりの記憶を少しでも思い出してくれることがあれば我々全員の大きな励みとなります。

野外の団体生活、一人ひとりの生きる力が問われる



家庭環境部会

親子が同じテーマで時間を共有できる日 親子ふれあい教室や映画鑑賞会

部会長 小竹伸子



作ったリースは早速クリスマスで飾る

毎年12月末に「親子ふれあい教室」、3月の春休みに「親子ふれあい映画鑑賞会」を開催しています。どちらも父母や祖父母と子どもたちが一緒に参加して、物づくりや映画鑑賞を行うイベントで、親子や家族で同じテーマや目的意識を持って時間を共有し、「想い出の1日」を作ることができる素晴らしい活動だと自負しています。

「親子ふれあい教室」は昨年度、そばづくり・焼きものづくり・しめ縄づくり・ミニ門松づくり・ソ

ーセージづくり・リースづくりの6教室を開催しました。参加者は様々で、ママは小さい兄弟姉妹がいるためパパと参加する子。日ごろ、下の子に手がかか



子どもに一番人気!! 魚のつかみ取り

危険箇所の実態調査や花の植栽 鯉まつりでは魚のつかみ取り等を担当

社会環境部会

部会長 飯塚 壽子

造の広場で、ベゴマ、お手玉、けん玉、竹ポックリづくり、風車付き鯉のぼりづくり、ふわふわドーム、サッカーチャレンジなどをサポートしています。演目が多い上に作ったり指導したりでとても

忙しいです。お客さんの中学生が手伝ってくれたりします。家庭環境部会の委員は、各関係団体から選出された方々で構成されています。世代や家庭環境は様々で、子育て中の人、現役で働いている人、祖父母世代の人と様々です。イベントに参加する皆様のため、行事内容の計画、準備当日のサポート等、スタッフはどの参加者にも楽しんでいただくために、ケガや事故の無いよう配慮して頑張っています。



この後みんなで試食会

社会環境部会の活動は、社会環境の実態調査、花の植栽、うしく鯉まつりで夢の広場を担当、みんなのしあわせ見本市への参加の4つです。社会環境の実態調査は年2回、市内のゲームソフト、コミック、DVD、古着などを扱う複合店や危険箇所等を調査しています。7月に部会員と牛久地区、奥野地区の支部長、2月に部会員と岡田地区支部長が巡回しています。家庭・学校・地域それぞれの立場からの関係者が共に巡回することは、情報の共有と交換の場となり大変有意義な事業となっています。



サルビアが輝く中央生涯学習センター

「春のパンジーは暖かさを感じ、夏のサルビアには元気をもらっています」水撒きをしているとき、こんな言葉をかけていただき、大変うれしく感じました。うしく鯉まつりでは岡田地区の支部長さんと一緒に「夢の広場」

行事の時に花が見栄え良く咲くよう、花ガラを摘み取ったり手入れをしています。一番の大事な事は枯らさないこと。部会全員で担当割りをして水撒きをしており、皆さんの協力で感謝です。

花の植栽は6・11・3月に、中央生涯学習センター、牛久消防署、栄町交番にプランターを設置しています。6月はサルビア、11月と3月はパンジーとビオラです。成人式ではパンジーをバックに写真を撮る姿が多く見られます。このパンジー、ビオラは「うしく鯉まつり」では舞台や遊歩道を飾ります。今年の鯉まつりは中止になりました。でも花は中央生涯学習センターで咲いています。今はサルビアです。

広報部会

「着実に育つ触れ合いの場」を確認

で、魚のつかみ取り、バルーンアートづくり、的当て大会などをサポートしています。魚のつかみ取りは鯉まつりの中でも最も人気のある遊びの1つです。前日、池の掃除をし、水抜き箇所にて

めたブロックと土嚢を積み、当日再度池の中にガラスや小石などがないか点検、子供たちの安全を期して水を張ります。みんなのしあわせ見本市は11月中旬牛久運動公園体育館で開催さ

れます。今年は中止ですが、例年バルーンアートで参加しています。今年は楽しみにしていた多くの行事が中止になりました。子どもたちの大きな笑い声が、早く戻って来るよう願っています。

部長 直井 朗



親子で教わるしめ縄づくり

広報部会の役割で一番大きいのは、7月と10月に行う会報「ふれあい」の発行です。7月号では、5月の「うしく鯉まつり」の様子と前年12月に行われた「親子ふれあい教室」の様子を中心に紙面を作っています。10月号では、夏休みに行った「ふれあいキャンプ」の様子を、大人の目で見た記事と、子どもの感想文

の両面から伝えていきます。広報部会員は今年度は10名ですが、鯉まつり、キャンプ、親子ふれあい教室については、当日参加した広報部会員のほぼ全員で現場取材を行っています。鯉まつりでは、2人ずつペアを組んで会場に散らばり、遊んでいる親子や家族、友だち同士にインタビューし、撮影も行います。そうやってキャッチした生の情報をすべて集め、それを基に構成しているのが、「ふれあい」7月号の鯉まつりの記事です。

そのほかに広報部会では会場受付を担当し、幼稚園・保育園で作成したパネルの展示・設置・回収と、会場案内看板の作成・設置・回収も行っています。「ふれあいキャンプ」には広報部会員も必ず3〜4名同行し、2泊3日間子供たちを密着取材するだけでなく、キャンプの現場で子供たちをサポートしている市民会

議員やボイスカウト指導者、市役所職員約20人の感想も適宜取り入れて、記事をまとめていきます。「親子ふれあい教室」では、日本人の生活文化を支える6つの物づくり講習会が同時並行で実施されます。したがって取材は、これも広報部会全員で、誰かがどれかの教室を担当するという形で、す

べての現場をそれぞれ何人かで取材しています。主立った活動を広報部会全員で10年近く現場取材してきて分かったことは、青少年育成牛久市民会議のイベントは、親子や家族、友だち同士、あるいは家族同士や知り合い同士の触れ合いの場として、確実に定着し且つ着実に拡大・発展しているということです。それが、牛久を家庭・学校・地域が一体となつて子どもを育てる街にしようという、市民会議関係者のモチベーションを、さらに高める大きな要因になっていることも見逃せません。

編集後記

今年度の活動はまず鯉まつりの中止で、そこに投入されてきたエネルギーの大きさが、かえってまざまざと思い起されました。そのエンジンをいかに滞りなく再起動するか。ウィズコロナでは、それが当面の一番大きな課題です。その一方で今、牛久市教育委員会は「コミュニティスクール」を推進しています。子どもの生きる力を育てるために、地域も積極的に子どもや学校に関わって欲しい。これは青少年育成牛久市民会議の原点そのものでもあります。ポストコロナではこの原点に沿って、地域と子どもや学校との接点を幅広く見直し、お互いにとってより発展性のある関わり方を生み出していきたいものです。



一緒に食べながら笑顔で話を引き出す